

4-4 社会との交流

一般市民の方々に科学の面白さ・意義を伝えるとともに、科学コミュニティの健全な発展を促すような相互交流を醸成するための取り組みは、ますます重要性を増している。分子科学研究所では、このようなアウトリーチ活動の一環として、他機関との連携・共同により国内の広い範囲をカバーする事業、および、岡崎の地域性を重視した事業という2つのタイプを実施している。前者としては、自然科学研究機構シンポジウムならびに大学共同利用機関シンポジウムがあり、後者は一般公開、分子科学フォーラム、岡崎市民大学講座等である。また、全国の中学・高等学校の団体から、個人の申し込みまで、見学者を受け入れている。

4-4-1 一般公開

研究活動や内容について、広く一般の方々に理解を深めていただくため研究所内を公開し、説明を行っている。現在では岡崎市にある3つの研究所が輪番に公開を実施しているので、3年に1回の公開となっている。公開日には実験室の公開と講演会が行われ、多くの見学者が分子研を訪れる。

回数	実施月日	入場者数
第11回	2006.10.21	2058人
第12回	2009.10.17	1346人
第13回	2012.10.20	1126人
第14回	2015.10.17	2600人
第15回	2018.10.20	3878人
第16回	2021.10.23	YouTube再生回数：2618回 ニコニコ動画来場者数：26,964人 (10/23一般公開終了時点)

4-4-2 分子科学フォーラム

当フォーラムは「分子科学の内容を他の分野の方々や一般市民にも知らせ、また、幅広い科学の話を分子研の研究者が聞き自身の研究の展開に資するように」との趣旨のもとに、1996年より実施されている。豊田理化学研究所と共催となっており、年度毎に年間計画を豊田理化学研究所の理事会に提出している。2008年度よりは、一般市民の方々に科学の面白さ・楽しさを伝える「市民一般公開講座」として新たに位置づけられ、2009年度には、一元的で効率的な活動の展開を目指して、広報室を中心とした実施体制の整備を進めた。この際、講演回数をこれまでの年6回から4回に変更し、密度の高い講座を開講することで、より魅力的な『分子科学フォーラム』の実現を図った。COVID-19感染拡大後はオンライン開催に切り替えたが、開催時間、広報活動をターゲットに合わせ変更した結果、全国の社会人、大学生、高校生に参加いただけるようになり、参加人数もリアル開催よりオンライン開催の方が多結果となった。

本年度の実施状況は以下の通り。(すべてオンライン開催)

回	開催日	テーマ	講演者	参加人数
136	2023. 6. 2	Think Hybrid ～異分野融合で近づく SF の世界～	竹内 昌治 (東京大学大学院教授)	約 250 名 (累計 522 名)
137	2023.10.20	パズルのように分子を作る ～曲がった炭素分子の有機合成～	瀬川 泰知 (分子科学研究所准教授)	約 230 名 (累計 2322 名)
138	2023.12.15	光格子時計が拓く新たな時空間計測	香取 秀俊 (東京大学大学院教授／理化学研究所主任研究員, チームリーダー)	約 170 名 (累計 787 名)

4-4-3 市民向けシンポジウム

(1) 自然科学研究機構シンポジウム

当シンポジウムは 2006 年より年 2 回のペースで実施され、下記のようにこれまでに計 35 回開催されている。

本シンポジウムに対する分子科学研究所の関与は次の通りである。第 1 回において、「21 世紀はイメージング・サイエンスの時代」と銘打ったパネルディスカッション中で、岡本裕巳教授が「ナノの世界まで光で見えてしまう近接場光学」というタイトルで講演を行った。第 2 回目は、講演会全体の企画を分子科学研究所が中心となって行った（詳細は「分子研レポート 2006」を参照）。第 7 回では、加藤晃一教授が自らの体験に基づいて「研究の醍醐味とは何か」を伝える講演を行った。第 11 回では、大峯巖所長（当時）が「水の揺らめきの世界：揺らぎと反応と生命」というタイトルで講演を行った。第 14 回は、再び講演会全体の企画を分子科学研究所が中心となって行った（詳細は「分子研レターズ 68 号」を参照）。第 21 回では、正岡重行准教授（当時）が「人工光合成への挑戦～植物に学ぶ分子デザイン～」というタイトルで講演を行った。2020 年度の第 30 回は分子科学研究所が企画し、機構と名古屋市科学館の主催で「宇宙科学と生命科学の深～いつながり」と題したシンポジウムをオンラインで開催した。2021 年度の第 33 回では、古賀信康准教授が「創って理解する 生命現象をつかさどる分子『タンパク質』」と題したオンライン講演を行った。2023 年度の第 37 回では、藤田 誠卓越教授が「生物構造に見られる幾何学定理：化学の力で『逆手にとる』『破る』」というタイトルで講演を行った。

今年度の実施状況は以下の通り。

回	開催日	テーマ	開催方法
36	2023. 9.24	データ蒐集家と散策する ——ビッグデータと人はどのように寄り添って生きていくか——	多摩六都科学館 (ハイブリッド開催)
37	2024. 2.23	生物界にも分子や数学によって生成される 秘密のルールがあるのだろうか!?	国立科学博物館日本館講堂 (ハイブリッド開催)

(2) 大学共同利用機関シンポジウム

本シンポジウムは、自然科学研究機構を含む 4 つの大学共同利用機関法人を構成する 19 の研究機関と宇宙科学研究所が、総合研究大学院大学と合同で開催したものである。各研究機関が「知の拠点群」として果たしている役割と、研究の推進を通じて切り拓かれた科学の広大なフロンティアの現状について、広く一般市民の方に紹介することを目指している。分子科学研究所はブース展示に参加し、先端的研究成果や分子科学に関連する基本事項の解説を行っている。例えば、常

設展示室に設置されている 920MHz NMR の半立体模型（第 2 回）、大型スクリーンに投影したスーパーコンピューターによるシミュレーション CG（第 3 回～第 9 回）、および各種の大型分子模型（第 4 回～第 10 回）、研究者トーク（第 6 回～第 9 回）等を通じて研究活動に関する詳しい説明を行った。第 11 回、第 12 回はオンライン開催となり、分子科学研究所は研究所紹介 CM 動画を配信し、またシンポジウム特設サイト内に分子研紹介ページを掲載した。第 13 回は分子研が主体となり企画・運営を行った。「科学の時代。見えてきた未来」と題し、大学共同利用機関の教員 10 名が講演、パネルディスカッションを行った。ハイブリッド開催だったが、名古屋市科学館に共同主催になっていただき、名古屋市科学館サイエンスホールを講演会場とした。午前・午後とも会場はほぼ満席、視聴者数も過去最高の約 30,000（累計）となり、大変盛況なシンポジウムとなった。第 14 回は秋山修志教授が「概日時計のこれまでとこれから」というタイトルで講演を行った。

実施状況は以下の通り。（中期計画第 4 期）

回	開催日	テーマ	会場／開催方法
13	2022.10.24	科学の時代。見えてきた未来	名古屋市科学館 (ハイブリッド開催)
14	2023.10.22	現代の社会問題に挑む日本の科学	日本科学未来館 (ハイブリッド開催)

4-4-4 見学者受け入れ

自然科学研究機構岡崎 3 機関の見学者の受け入れは、岡崎統合事務センター総務部総務課企画評価係が窓口になって行われており、その中で分子科学研究所の見学分については、研究力強化戦略室が中心となってその対応にあたっている。2010 年 5 月に展示室を開設し、個人の見学受け入れを開始した。年間およそ 300 名が来訪している。2022 年度は感染状況が落ち着いていることを条件として受け入れた。

見学申込み

（中期計画第 4 期）

年度	団体申込（施設見学＋展示室見学）			個人申込 （展示室）	見学者総数
	団体数	見学者数	実施機関名	見学者数	
2022	5	134	静岡大学農学部 岡崎市現職研修委員会理科部 ほか	0	134
2023	11	242	愛知県弁護士会、岡崎商工会議所、山梨県立日川高等学校、静岡県立浜松南高等学校、大阪府立富田林高等学校、三重県立伊勢高等学校、中部経済連合会、愛知県立高蔵寺高校、愛知県立春日井高等学校、名古屋市役所経済局、名古屋市立大学	2	244

4-4-5 その他

(1) 岡崎商工会議所（岡崎ものづくり推進協議会）との連携

岡崎商工会議所は、産学官連携活動を通じて地元製造業の活性化と競争力向上を目的に「岡崎ものづくり推進協議会」を設立し、多くの事業を行っている。この協議会と自然科学研究機構岡崎 3 研究所との連携事業の一環で、協議会の会員である市内の中小企業との交流会を 2007 年度に開催し、この交流会によって出来あがった協力体制は現在

も継続している。また岡崎商工会議所主催で隔年開催される「岡崎ものづくりフェア」へ大学・研究機関として展示ブースを設けて参加している。

(2) 岡崎市観光協会との連携

2018 年より岡崎市観光協会と連携を開始し、各種市民向けのイベント等で相互に協力することで、市民への広報活動がより活発に行えるようになっている。

実施日	内容
2018.10.20	一般公開 キッチンカーのご提供
2019. 6.13	岡さんぽ（岡崎市観光協会主催のイベント）への協力
2019.10.11	岡さんぽ（岡崎市観光協会主催のイベント）への協力